

子ども支援台湾ボランティアキャラバン

岡 みゆき

はじめに

子どもたちの身体と心の健やかな育ちを願って活動を行っている幼児体育研究者仲間の先生方と2016年2月22日から27日、3月12日から14日の日程で2度台湾を訪れて子どもへの運動実践指導と、保育者・保護者向け研修・講習会を行いました。

この活動はアジア地域の幼児体育において国際的・学際的ならびに学術的研究の進歩と発展を基に、理論的裏づけによる実践的指導の普及・振興をはかるという目的で設立されたアジア幼児体育学会から派生しています。この学会は、幼児の将来において、体育活動が幼児の健康や体力・運動能力向上に良い役割を果たすようにと考える研究者や保育者、幼児体育関係者の集まりです。今回の活動は、子ども支援台湾ボランティアキャラバンとして位置づけ、日本の研究で得られた知見と海外との比較、幼児体育での交流実践や、情報交換も行うことができる大切な場として活動を行いました（表1）。日本では沖縄、高知で同様のボランティアキャラバンを展開し、海外では台湾・フィリピン・韓国でも活動を行なっています。

台湾は日本（大阪）から飛行機で3時間。近年、日本人が観光で訪れる国の上位になっています。国土の面積は3万6千平方メートルで日本の九州よりやや小さく、人口は2016年現在2350万人です。その人口の80%以上が西海岸に面した都市に住んでいることも大きな特色です。西側には中国大陸からの漢民族が多く、東側に原住民が住んでいるという分布になっています。台北市が首都ですが、その台北市をとり囲むように新興都市として新北市があり現在の人口は台湾1位です。台北市に隣接した桃園市にある国立台湾体育大学を拠点にして、首都である台北市のほか新北市・台中市（図1）の幼児園訪問と保育者への講演・実技講習。新北市淡水スポーツセンターにおける台湾の幼児体育指導者とのコラボレーションで行った幼児への運動指導等について報告します。



図1 台湾訪問地図

訪問した台湾の幼稚園の現状

台湾の幼児教育をになう園は2010年に幼稚園から幼児園（日本でいえば「こども園」に近い）に移行する政策が行なわれ、0歳から就学前の子どもを預かっています。日本と同じように公立と私立の園があり、少子化も進んでいることから、私立の幼児園では各園の特色を打ち出して入園説明会が頻繁に行われており、人気の園ではキャンセル待ちの状態も見られました。

私たちが訪問した園は、すべて私立の幼児園で、子どもの出席が、バーコードで管理されており、朝早く登園した子どもが園の掃除を行い、朝食を園で摂るシステムになっています。朝食から昼食までは必ず3時間あけ肥満に対する配慮を行っているという説明がありました。台湾の幼児は肥満傾向が日本より高いと報告されています。

日本の絵本が取り入れられて、よく読まれているということでした。実際、日本の絵本に中国語の表記を重複して貼り作者別、シリーズ別にきれいに分類されて子どもたちが手に取って読みやすい高さに配置されていました（写真1）。気候的に暑い台湾の幼稚園は、園庭（非常に狭く外遊びをするという習慣はないようでした）に日差し除けのひさしが貼ってあり直射日光が当たらないような構造に作られていました。教室には扇風機やクーラーが、たくさん設置されていて亜熱帯性気候の国であることを実感し暑さに対する配慮がしっかりできている様子が伺えました。幼稚園の遊戯室は、日本とは違い木の床ではなく、大理石（あるいはピータイル）の床でした。運動時の安全面の配慮を考えると少し怖い気持ちを持ちましたが、気候を考えると熱を逃がすためにそうなっているのだと理解できました。子どもたちは明るく人懐っこく初対面の指導者にも臆する様子もなく楽しく運動実践に応じてくれました。



写真1 幼稚園にある日本の絵本

保護者向け講演

保護者向け講演は夜間に行われることが多かったのですが、幼稚園からの自由参加での呼びかけに保護者の半数以上が参加し21時の講演時間が終わっても残って、園の先生方と交流していました。子ども達も居残りして講演会が終わるのを待っていてくれました。私たちは子どもの就寝のために「早く連れて帰ってくれるといいな」と考えていましたが、急ぐ様子もなかったことから生活全般に夜型社会であることがうかがえました。

台北市・新北市・台中市の依頼で行った保育者研修

集まってくれた方々は、陽気で明るくおしゃべりな保育者さんたちでしたが、実際講義や実践が始まると集中して楽しんで受講してくれました（写真2）。この明るさと切り替えの早さが保育者には必要であり、幼児の教育に期待できる頼もしい存在だと感じました。0歳から対応できる運動あそびを指導してほしいとのリクエストが多くあり、月齢の小さい幼児には音楽を使ってのリズム運動が有効であることを通訳の方を交えながら説明していただき実践を行いました。ここで実感したのですが、保育者研修には日本の幼児についての雑誌「たまごクラブひよこクラブ」ベネッセコーポレーションにおいて日本語から台湾語に翻訳を行う編集者として活躍している方が通訳についてくれました。通訳が的確であったのでしょう保育者の皆さんへの伝わり方が違った感じがしました。通訳も、とても大切であると実感しました。

淡水スポーツセンター

大阪で例えると、なみはやドームと長居競技場が一緒になったような国営の総合型スポーツセンターです。大きな特色はセンター内のプールでカヌーの練習ができ、海洋スポーツの指導が充実していることでした。センター主催イベントとして、「日本の幼児体育を経験しよう！」と受講者を新北市内の幼児園から40人公募で選出された幼児が参加していました。台湾の幼児体育指導者と一緒に運動指導に当たりました。初めて顔を合わせる幼児同士でしたが、運動には、とても積極的で、しっかり運動遊びを楽しんでくれていました（写真3）。

騎士堡

商業施設内において子ども向けの遊び場を提供している騎士堡と言われる施設で運動実践を行いました。親子で体験する運動遊びや、ごっこ遊びの屋内施設です。施設内のスタジオで「親子ふれあい体操と運動あそび」のイベントとして親子25組を募集する企画で行われました。募集組以上の参加親子があり、パラバルーンやリズム体操も交えながら運動あそびを楽しんでくれました。



写真2 新北市保育者研修



写真3 淡水スポーツセンター

まとめ

総じて、どの講習会においても参加者の皆さんが親日的であり、私たちにとっては、とても居心地の良い雰囲気です。講義や運動実践を行うことが出来る空間でした。幼稚園での講演や運動実践に参加して新しい知見を得たいという前向きな雰囲気がありました。保育者研修では述べ300人以上の現役保育者が、休日を返上して参加してくれました。

台湾の子ども達が抱えている・抱えさせられている問題点

生活調査では、近年の日本と同じく遅寝遅起きの子どもの目立っていました。台湾では生活全般に夜市などが定着しており夜型社会であることがうかがえます。暑さを避けてということなのでしょう、夜の9時過ぎ大人たちが集まって公園で交流しています。そこに子ども達も一緒に遊んでいます。古くからの習慣だと思えますが子どもの健康にとって良いとは思えない状況と感じました。

次に、食の問題です。台湾幼児は、朝食は園に来てから食べるという習慣が確立しており肥満傾向の子どもも多いという報告がされています。これから、日本も保護者に時間の余裕がないということから、朝食は園で摂るといって形になっていくのではないかと危惧しています。日本の保育内容「健康」には食育を重要視した内容が盛り込まれ日本の食文化なども大切にしようと謳われています。日本も台湾のように朝食を園で提供するようになれば、幼児期の画一的な食が子どもたちの味覚や嗜好にどのように影響するのとも考えさせられました。

スポーツにおいては野球・バスケットボールが人気の中心であり、幼児でも比較的簡単にできるサッカーあそびなどはごく一部でしか行われておらず体系化もされていない状況でした。スポーツに関する運動能力が高いのは住民だという意識もうかがえました。気候的に比較的近い日本の沖縄での活動から得た知見も交えながら幼児期の運動の大切さ生活習慣の重要性を知ってもらい、台湾では幼児にどのような運動種目・運動内容が適しているのか台湾の幼児体育指導者と一緒に考えていきたいと思いました。

追記

2016年8月、台湾で日本幼児体育指導者養成講習会が開かれました。定員80名でしたが80名を超える指導者の参加があり来年の開催も決定しています。日本の幼児体育研究者も、より研究を深め台湾の幼児体育に役立つように貢献していけることを夢見ています。

謝辞

最後に活動の中心となって企画、ご指導くださった早稲田大学人間科学学術院・前橋明教授と国立台湾体育大学・黄永寛教授、翔祥幼稚園・江東園長に心より感謝をいたします。活動をともにした幼児体育研究者仲間みなさんにも感謝を申し上げ、これからの活動の推進に励みたいと考えます。ありがとうございました。

表1 活動内容

台湾キャラバン活動内容一覧					
平成28年2月22日（月）～2月27日（土）					
日程	実施時間 (予定時間)	会場	内容		
			対象	担当 [敬称略]	概要
2月22日 (月)	10:05～11:25 (10:00～11:00)	剣聲樹林 幼稚園	親子30組	藤田・前橋・廣中・丸山・岡	準備体操・リズム体操・親子体操・リズム遊び・パーカッション・サーキット遊び・手あそび
2月23日 (火)	9:50～11:40 (9:30～11:30)	林口幼稚園	年中30名・ 親15名	岡・菊池・藤田・	リズム体操・サーキットあそび・ふれあいあそび・整理体操
			年少20名	廣中・岡・	リズム遊び・パーカッション・手あそび
	17:20～17:55 (17:00～17:30)	翔祥幼稚園	幼児40名・ 親25名	藤田・岡・廣中・松原	準備体操・リズム体操・走り方練習・リズムあそび・パーカッション
2月24日 (水)	10:30～12:10	淡水運動 センター	幼児35名	丸山・藤田・前橋・菊池・松原・岡	サーキットあそび・手あそび・リズム体操・親子体操・コーナーあそび
	19:00～21:00	三眼幼稚園	保護者80名	前橋	保護者への講演
2月25日 (木)	10:00～10:45	牧人幼稚園	保護者100名	前橋	保護者への講演
	10:50～11:55 (10:30～11:30)		親子70組140名	佐藤・岡・廣中・田嶋	準備体操・リズム体操・走り方練習・リズムあそび・パーカッション
	16:20～17:15 (16:00～17:00)	心語幼稚園	親子40組	岡・藤田・廣中・前橋	親子体操・リズム体操・パーカッション・ふれあいあそび
	19:00～21:00	千曜幼稚園	保護者120名	前橋	保護者への講演
2月26日 (金)	10:35～12:05 (10:30～11:30)	佳南芸術 幼稚園	親子13組	松原・岡・佐藤・前橋	スカーフあそび・リズム体操・講義・パーカッション・ふれあいあそび
	15:40～16:50 (15:30～17:00)	騎士堡	親子20組	藤田・前橋・岡・廣中・丸山・松原	リズム体操・ストレッチ・手あそび・サーキットあそび・パーカッション・ふれあいあそび
2月27日 (土)	10:50～12:00 (10:30～11:30)	博加日本 幼稚園	親子38組・ 保育者20名	松原・藤田・岡・廣中・菊池	バレーンあそび・サーキットあそび・リズム体操・パーカッション・ふれあいあそび
平成28年3月12日（土）～13日（日）					
3月12日 (土)	13:00～16:00	台中市	保育者120名	前橋	保育者向け研修講演
3月13日 (日)	10:00～17:00	新北市	保育者180名	前橋・岡・岡俊・五味	保育者向け研修講演・実技講習

山田昌尚、松尾章弘、峯恭子、土江田織枝 共著
『リズムチューナー：アノテーション情報を用いないリアルタイム発音検出によるリズム練習支援システム』

FIT 2016（第15回情報科学技術フォーラム）

峯 恭 子

1. 受賞概要

この度、「リズムチューナー：アノテーション情報を用いないリアルタイム発音検出によるリズム練習支援システム」のタイトルで、FIT（情報科学技術フォーラム）論文賞を受賞いたしました。この論文は、楽器を演奏する人を対象とした、リズム感の向上を目指した練習支援システムに関する研究を発表したものです。音楽演奏能力を向上させるうえで重要な要素の1つが、音高とリズムを適切にコントロールし実際に演奏することです。その練習を補助する手段として、音高については音の高さを確認するためのチューナーという機器を用いて、自身の演奏を視覚的に把握することができます。一方、リズムに関してはこのような外部的な補助手段で客観的に可視化する方法は一般化されていません。そこで本研究では、楽器を演奏しながら自分が演奏したリズムをリアルタイムに可視化するリズムトレーニングを支援するシステムを開発し、練習支援システムとしての実現性を大きく前進させることになりました。

2. 研究の背景と内容

演奏能力を向上させるうえで重要な要素の1つが、音高とリズムのコントロールであることは前述した通りですが、これは音楽を演奏するうえで基礎的な要素であるとも言えます。しかしリズム練習に関しては、チューナーを使用して視覚的に把握が可能な音高の練習とは異なり、メトロノームを使用した練習を行ったとしても、それがどの程度ずれているのか、また正確に演奏できているのかを客観的に把握することが困難な点が課題として挙げられます。

そこで、演奏者が楽器で演奏した1つ1つの音の発音のタイミングを、一定に刻まれるメトロノームのタイミングとともにパソコンの画面に表示するシステムの開発についてまとめたものが本研究の内容です。この画面を見ると、自分が演奏したリズムがどれくらい正確であるかを確認することができます。また、これまで手動だったシステム動作に必要な発音検出の設定調節を自動化する方法の開発を行ったことや、事前のアノテーション情報がなくても任意の演

奏を扱うことができる練習支援システムを開発したことは本研究の特筆すべき点であると言えます。また、客観的に自分自身の演奏を振り返ることができるこのシステムによって、本調査ではシステムを使用する前よりも使用後のほうがリズムを正確に演奏できた、という結果も得られています。

3. 本学の教育への活用

楽器を演奏する人にとって、正しいリズムで演奏できるように身体をコントロールすることはとても重要なことです。しかし、楽器の経験年数が短い場合や、難易度の高い楽曲を演奏する際には、リズムを正しく演奏することが時に難しく、自分自身が正確なリズムで演奏できているかどうかを理解するのも難しい側面があります。本研究で開発されたようなリアルタイムでリズムの正確さを把握できるシステムがあれば、例えばピアノを練習しながら自分自身の演奏を振り返り、自分にとって必要な練習を積み重ねていくことができます。自分自身の演奏を評価し、改善点を発見し、次の演奏に繋げていくことができる点は、予習・復習等の自主学習をはじめとする様々な教育の場面にも今後応用していくことが可能となるでしょう。

本研究では、管楽器を使用した調査を行いました。今後は、リズム練習支援システムとしての有効性をさらに検証し、ピアノ等の管楽器以外の楽器への応用についても研究を進めていきたいと考えています。

